

○ホストタウン事例（北海道士別市）

○**北海道士別市**（相手地域：台湾）は、チャイニーズタイペイチームの事前合宿誘致を目指すとともに、士別市の安全・安心な食材や地域の観光資源を台湾に対してPRし経済交流を推進することを目的に、ホストタウン交流事業を実施。

○2018年2月、2回にわたり台湾のウェイトリフティングチームを合宿に招へいた。合宿期間中には、公認スポーツ栄養士の指導に基づく士別産のグローバルG.A.P.食材をはじめとした安全安心な食材を活用したメニューの提供や、市内の農業生産者や中高生との交流イベントなどを開催した。

○事後アンケートでは「合宿で士別市にまた来たい」「安全安心な士別産の食材を人に勧めたい」と回答する割合がそれぞれ9割を超えるなど評価が高く、今後の合宿誘致や経済交流などが期待される。



合宿所での食事風景



公認スポーツ栄養士の栄養講義



地元高校との交流会①



士別市の安全・安心な食材を使ったメニュー例



メニューにおける
グローバルGAPの説明



地元高校との交流会②

○ホストタウン事例（岩手県野田村）

○**岩手県野田村**（相手地域：台湾）は、東日本大震災時の支援に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、村内外へのオリンピック・パラリンピックに関する情報発信に使うポスターづくりのため、2018年1月、村内の中学生4人を台湾に派遣した。

○中学生らは静岡市の中学生とともに台湾を訪問し、チャイニーズタイペイのトップアスリートに対するインタビューを実施した。帰国後、台湾での見聞をもとにポスターを制作し、村内行事での発表や鉄道車内への広告掲出など、さまざまな形で地域への情報発信を行った。

○今後、チャイニーズタイペイ陸上選手のキャンプ地である静岡市を訪問し、中学生が制作したポスターを持って感謝の気持ちを伝えるなど、村民全体で台湾を知り応援する取り組みを行う予定。



ポスター作成に向けた講習



現地にてトップアスリートへの取材を実施



チャイニーズタイペイ陸上協会への表敬訪問



野田村生涯学習大会にて成果発表



鉄道車両内でのポスターの掲示

○ホストタウン事例（山形県鶴岡市）

○山形県鶴岡市（相手国：ドイツ、モルドバ）は、2018年2月、ドイツ・モルドバ両国の農業関係者4人を招へいし、餅つき体験や農地・農産物直売所の視察、出前授業や学校給食体験等の他、市民も参加可能な「食と農のおはなし会」「国際オーガニックミーティング」といった交流イベントを実施した。

○これらの市民交流を通じて、ドイツ・モルドバ両国についての理解のみならず、鶴岡市における有機農業の取り組みについても関係者の理解が深まり、意識が事前合宿や事後交流に向けられた。

○今後は、パラリンピック種目ボッチャ競技のドイツナショナルチームの合宿や、モルドバからの合宿の受入れ時に、地元有機農産物を使用する予定である。



食と農のおはなし会の様子



燻製ハムづくりワークショップの様子



国際オーガニックミーティングの様子



国際オーガニックミーティング参加者に提供されたオーガニックフード

鶴岡ホストタウン推進事業

国際オーガニックミーティング in 鶴岡

3カ国の専門家によるプレゼンテーション×トーク×セッション

オリンピック・レガシーは、オーガニック

2020年東京五輪・パラリンピックを機に多くの外国人が日本を訪れます。日本の食文化が注目を集める中、安心安全な有機農産物が求められています。有機農産物の生産と消費は世界のオーガニックでも環境に負荷をかけない食生活のひとつとして受け継がれていて、持続可能な社会を作るためのレガシー（遺産）になっています。鶴岡市はドイツ・モルドバのホストタウンとして、多くの関係者との国際交流を進めています。世界有機の王様ドイツと、農業国モルドバのお話を聞きながら「食と農」について考えてみませんか？

- オーガニックな生活に興味のある方
- スポーツ好きな方やアスリートの食事をご存じの方
- 健康的な生活のために食事を考えている方
- 農業や家庭菜園に興味のある方

日本	志 藤 正 一 氏、鶴岡市有機農業推進協議会会長 （元がた有機農業の会）
モルドバ	コリー・ブルマレル 氏、農学者 モルドバ（共和国）にも国際プロジェクト（ワイン産業と農産物加工業の活性化）を推進
ドイツ	カール・ハイネ・フィッシャー 氏、農業技術者 専門は有機作物のマーケティング

コーディネーター：佐藤 明子 氏、フリーアナウンサー・Natural & Organic Shop 天地舎 代表

2018. 2.12 振替休日 月曜日 開始 14:30 閉場 14:00

鶴岡食文化市場 FOODEVER（マリカ東館1F）

入場無料・申込締切 2/7（水）

ここからとちを繋ぐ食と農の環境にやさしいオーガニック・フードの試食があります。限定50食！

主催：鶴岡ホストタウン推進委員会

お問合せ・お申込み（11.12日付）：鶴岡市ホストタウン推進委員会 0235-25-8131（鶴岡市教育委員会5階3号室）

関連イベント

2.11日曜日 13:00~ 「食と農のおはなし会」

集合場所：市役所 参加無料・要申込 2/7（水）市役所 20名

鶴岡市農引地で栽培されたぶどうの剪定枝を生かして誕生したプレミアムギフト燻製ハム。産・学・官が連携して出来たオール鶴岡産の食品に込められた「美味しい食の物語」名付けて「BUND STORY」のお話を聞いてみましょう。市役所20名の方をご招待します。

【内容】山形大学農学部実習農場までバスで移動→開会式「BUND STORY」のお話→ぶどう園めぐり→燻製ハムとスイーツの試食→交流と写真撮影→解散

国際オーガニックミーティングのチラシ

○ホストタウン事例（茨城県笠間市）

○**茨城県笠間市**（相手国：エチオピア）は、長距離のジュニア選手相互の交流とエチオピア選手の日本の社会及び文化の経験、笠間市とエチオピアとの交流拡大を図ることを目的として事業を実施。

○2018年1月、笠間市が開催する「県下中学校交歓笠間市駅伝大会」にエチオピアのジュニア選手2名とコーチ1名を招待し、笠間市の中学生と連合チームを結成してレースに参加。笠間中学校への一日体験入学など中学生相互の交流を深めた。

○同世代の世界トップレベルのエチオピア選手を招くことで、中学校の選手たちにとって国際感覚が醸成されるとともに、世界のレベルを知ること、競技力向上への刺激となった。

○事前・事後のキャンプ誘致や、エチオピアと笠間市における今後の交流拡大の可能性が広がった。



駅伝連合チームメンバー



駅伝後のサイン交流



中学校での授業体験（英語）



駅伝 ゴール前のデットヒート



駅伝前のたすき練習



中学校での授業体験（書道）

○ホストタウン事例（静岡県静岡市）

○**静岡県静岡市**（相手地域：台湾）は、台湾との交流を深めることを目的に、ホストタウン交流事業を実施。台湾陸上協会と2017～2020年まで毎年静岡市で合宿を実施することに**合意**している。

○2018年1月～2月、静岡市の中学生在が台湾を訪問し、これまでの台湾と静岡市の交流や台湾陸上協会について学び、実際に選手たちへの取材・撮影によるポスター制作を行った。また、静岡市内外に、台湾の魅力やホストタウン交流事業の取り組みについての情報発信を行った。

○静岡市民のオリンピックへの関心の向上、静岡市の魅力発信のほか、参加した中学生の国際感覚の向上など人材育成にも成果が見られた。また、台湾へ同行した岩手県野田村との交流も深まった。

○今回の成果を踏まえ、今後の合宿や交流など各種事業の展開も円滑に進むことが期待される。



ワークショップで学ぶ中学生たち



台湾を訪問し、撮影・取材を通して選手たちと交流



生徒たちの言葉と写真で完成したポスター



市の広報紙で事業を紹介し、市民に幅広く情報発信



ホストタウンサミットで取り組みを発表

○ホストタウン事例（徳島県）

○**徳島県**（相手国：ドイツ）は、オリンピック・パラリンピック（以下、オリパラ）を契機にしたドイツとの交流の拡大や地元産品の魅力発信を目的とした事業に取り組んでいる。

○2018年度事業では、徳島商業高校生らが「ホストタウン特派員高校生」として、阿波藍・**染**の製造所である農業法人や、グローバルG.A.P.を取得し、オリパラへの食材供給を目指す農家グループを取材し、専門家の指導の下、PR用映像作品の作成を行った。

○徳島県の魅力発信を行うため、特派員高校生が他の生徒や県内事業者へ事業協力を呼びかけた結果、オリパラを「自分ごと」として捉える人が増加。特に若い世代が、オリパラを契機に地域の将来を担う意識を持ち、それが周囲へと波及した。さらに、他自治体から連携の打診を持ちかけられる等、今後也多方面に成果が波及していくと期待される。



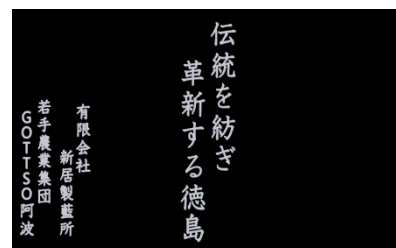
新居製藍所への取材



GOTTSO阿波（農家グループ）への取材



映像の編集作業



完成した映像作品